# ひろの星

No.　251

もくじ


アブドル・バハの言葉……2
真実を述べること……3
クイズ……7
ぬり絵……8
めいそう……9
工作……10
みんなの写真……11
保護者のページ……13

真実(しんじつ)を
述(の)べることは
すべての美徳(びとく)
の基礎(きそ)である。

アブドル・バハ

# 真実を述べること

風が強い、沖縄の秋のある日でした。家の隣の空き地で、ボールで遊んでいた５人の子供が家に帰って来ました。リアズとアスマは走って帰って来て冷蔵庫の冷たい飲み物を取りに行きました。シャラとモナは女の子の部屋に入って行きました。アニサは４人の兄や姉たちが一緒に遊んでくれたのがうれしくて、その様子をお母さんに話していました。そのとき突然女の子の部屋から悲鳴が上がりました。

「**おかあーさーん**！！！」とシャラが叫びました。

それから、びっくりする程の大きな泣き声がしました。シャラがほほに涙を流しながら、大事にしている人形を手にして出て来ました。アスマが彼の誕生日プレゼントを買ってもらう代わりにシャラに好きな人形を買うようにしてあげたものでした。シャラは片手に人形の頭を、もう一方の手には胴体を持って立っていました。子供たちとお母さんはシャラとその哀れな人形の周りに集まりました。「誰かがアナリサ（人形の名前）の頭を取っちゃったのよ！」とシャラが泣きじゃくりながら訴えました。「リアズ、あんたでしょ。こんなことしたのは！」とシャラが叫びました。「お前の人形なんかに俺が触るわけないだろう！俺が一人でこっそり人形なんかと遊ぶとでも思っているのか！」とリアズが笑いながら言いました。シャラがみんなを見回してアニサに目を止めて、じっと見ました。みんなの視線が一斉にアニサに集まりました。

「アニサ、あなたがシャラの人形をこわしたの？」と、お母さんがやさしくたずねました。

「ちがうよ。」と、アニサが下を向いてこたえました。「この子だと思うわ、お母さん。いつもその人形で遊びたがっていたけど、シャラがそうさせなかったのよ。」とモナが言いました。リアズがアニサの腕をつかんで「白状しろよ、アニサ！俺だって時々悪さするけど、いつも本当のことを言ってるんだよ！」と言いました。「ちがうよ！」と、ほほに涙を流しながら、アニサがリアズの手を振りほどいて叫びました。モナがアニサの前に膝まづいて言いました。「たぶん事故だったんでしょ？そうでしょう？アニサちゃん？」「ほら、本当のこと言えよ。」とアスマがやさしく言いました。「お母さんがいつも言ってるだろう。この世で罰をくった方がいいって。それで何かを学べばいいって。次の世まで待っていたら、なおすには遅すぎるんだぞ。」

「真実を述べることは全ての美徳の基礎なり。」とリアズがかしこまって唱えました。

アニサが手で顔をおおって泣きながら床に座り込みました。シャラの時よりもひどい様子でした。お母さんがアニサを膝にのせて、シャラの手から哀れな人形をやさしくとりました。ひねったり、押し込んだりしながら、とうとう頭を元に戻しました。そして人形の服

を整えてやさしくシャラに返してみんなに言いました。
「みんな、真実を述べることがどんなに大切か、またどうしてそれが全ての美徳の基礎なのか、その物語を聞いてみる？」
大事にしている人形を抱きかかえてゆらしながら、アニサをにらみつけて、シャラはお母さんの横に座りました。他の子たちもお母さんを囲んで座りました。それからお母さんがお話を始めました。

*昔あるところに、とてもいたずらっ子の男の子がいました。男の子は猫のしっぽをひっぱったり、近所の犬をいじめたりしました。　また、お兄ちゃんに黙って、お兄ちゃんのおもちゃで遊んで、時々それを壊してしまいました。お母さんがお客さんに作ったデザートも、こっそりと食べて知らんふりをしました。他にも時々友達の宿題なのに勝手に自分の名前を付けて自分のだと言ってしまうこともありました。*

*でも、この男の子は、本当はそんなに悪い子ではなかったのです。いい心を持っていました。いい子になりたいけれど、いい子になるのは、難しいと思っていました。何も考えないで、ついいたずらをしてしまうのでした。悪いなと思っていても、謝らないで、自分がしたのではないと嘘を言ってしまうのでした。そうすれば、誰にも叱られずにすむし、みんなから好かれると思っていました。*

*ある日、男の子のおばあさんが訪ねて来ました。このおばあさんが賢いことは誰でも知っていました。このおばあさんは小さい子供が大好きでした。そこで、このいたずらっ子の男の子は、おばあさんに助けてもらうことにしました。*

*おばあさんが一人でロッキングチエアに座っているとき、男の子は、おばあさんにそっと近づいていって、膝の上に乗っかりました。男の子は、いたずらっ子ではなくて、いい子になりたいとどんなに思っているかおばあさんにすっかり打ち明けました。そして、おばあさんに助けて欲しいと頼みました。おばあさんは、どんないたずらをしたのかききました。男の子は恥ずかしそうに下を向いて、自分がしたことを口ごもりながら、少しずつ話し始めました。その日の朝、おばあさんの靴の中にカエルが入ったと男の子が言ったのは嘘でした。「本当は僕が入れたんだよ。」と、男の子は言いました。*

*おばあさんは、にっこりして言いました。「いたずらをしてしまうのは気にしないで何でもしたいことをしなさい。ただこれからはいつも必ず本当のことを言うようにしなさい。ただそれだけ。他にはいい子になろうと考えなくていいよ。」男の子はとても喜びました。「よし、今まで*

どおりしたいだけいたずらができるぞ。面白いと思うことは何でもできるぞ。ただ本当のことさえ言えばいいんだ。そんなの簡単だ。」

次の朝、男の子はとてもいい気分で遊びに出かけました。だって、必ず本当のことさえ言えば何でもできるからです。最初に男の子の目に入ったのは、かわいい緑のトカゲでした。「ようし！お姉ちゃんのバッグの中に、このトカゲを入れてやれ。きっとお姉ちゃん悲鳴をあげるぞ！」

「あ、でも、ちょっと待てよ、本当のことを言わなくちゃいけないんだ。もしお母さんがこのことをきいたらどうしよう。僕がしたと言わなくちゃ。そうしたら、お母さんはとても怒るだろうな。だめだ、できない。」と男の子は考えながら、しばらく行くと、お兄ちゃんのスケートボードが目に入りました。『うん、これはいい、ちょっと乗ってやろう。』でも、そのとき考えました。もしお兄ちゃんがきいたら、自分が黙って使ったのがばれてしまう。だから男の子は、それもやめました。

男の子は、だんだん退屈になってきました。そのうち、近所の庭につないである犬を見つけました。「あ、そうだ、このばかな犬をからかってやれ。」と思い、男の子は棒切れでその犬をいじめようとしました。「おっと、この犬が吠え出して近所が出てきて、どうしたのかときかれたら、本当のことを言わなければいけないんだ。」と考えてまた歩き続けました。

一日中こんな調子でした。だから男の子は何一ついたずらをしませんでした。どんなときも本当のことを言わなくてはいけなかったからです、

家に帰ったその夜、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、それからおばあさん、みんながその日男の子がどんなにいい子だったか褒めました。男の子はみんなが自分のことを愛し、気にかけてくれているのに気づきました。男の子は、このときから本当のことを言うことに決めました。そして男の子はもう二度といたずらをしなくなったのでした。

お話が終わると、みんながアニサの方に目を向けました。アニサは涙を拭きながら小声でそっと言いました。

「ごめん、シャラちゃん。人形の服を着替えさせようとしたけど、服が取れなくて、頭の方が取れちゃったのよ。こんなにするつもりじゃなかったのよ。人形、大丈夫？」

シャラはまだおさまらなくて、アニサをにらみつけながら、大切な人形をもう一度見て言いました。

「アニサ、でも二度と勝手にこの人形に触らないでね！」

「わかった。二度としないと約束する！」とアニサが真剣にこたえました。

お母さんが微笑みながら二人を抱き寄せて言いました。

「美徳の家を作ってみましょうか？真実を述べることがどんなに大切か、もっと理解できるようになると思うわ。」と言いながら、お母さんが他の部屋に行って

トランプのようなカードを見つけて戻って来ました。カードには数字ではなくて、それぞれに美徳が書かれていました。愛、尊敬、気づかい、手伝い、許し、服従、寛大、和合、敬虔、謙遜などです。お母さんが子供たちに４枚ずつカードを配って説明しました。

「さあ、みんな、美徳の家を作りましょう！」

子供たちは家の壁になる４枚のカードを立たせようとするけれど、どうしても倒れてしまって、うまくいきません。とうとうお母さんが言いました。

「あっ、そうそう、みんなに基礎になるものをあげてなかったわ！」お母さんが紙粘土を配りながら、家の土台を作るように言いました。「これが真実を述べることで全ての美徳の基礎になるものなのよ。」

リアズが紙粘土を受け取りながら大声で言いました。

「お母さん、忘れたんじゃなくて、わざと紙粘土をくれなかったんだ！そうだろう？」

みんなは紙粘土の土台に４枚のカードを差し込みました。今度は簡単に美徳の家の壁が立ち上がりました。小さいアニサでも出来ました。それからお母さんが色模造紙を配って、それを半分に折って家の屋根にして、そこに「礼儀正しさは美徳の王子」と書くように言いました。それからお母さんが続けて言いました。

「みんな、分かったでしょ。基礎なしで家は立ち上がらないでしょ。だから真実を述べることは大切なのよ。一番大切な美徳なのよ。今までに習ったどんな美徳もこれなしでは成り立たないのよ。」

アスマが提案しました。

「みんなが作った家の土台に『真実を述べること』と書き込んだらどうかなあ。そうすればそれがどんなに大切か、みんなに分かるんじゃないかな。」

子供たちは居間に５つの立派な美徳の家を飾りました。お父さんが夜帰って来たら見せるためでした。

ベッドに入る時、シャラはアニサに自分の大切な人形を抱かせてあげました。二人ともにっこりとほほ笑んで眠りました。

*「真実を言わなければ、神の全ての世界における進歩と成功は誰にとっても不可能である。」アブドル・バハ*

# クイズ

１．何故シャラは泣いていたのですか？

２．誰が人形を壊したのですか？

３．お母さんのお話の中で、誰に男の子はいい子になれるよう手伝って欲しいと頼んだのですか?

４．何をするように、おばあさんは男の子に約束させたのですか？

５．何故その日男の子は何もいたずらをしなかったのですか？

６．男の子が家に帰って、何が起きたのですか？

７．何を男の子は習ったのですか？

８．何の家を５人の子供は作ったのですか？

９．何を家の壁を立てるのに使ったのですか？

10.　このお話から、何をみんなさんは習いましたか？

どうでしたか？全部答えられましたか

答えは保護者のページのお話のあとにあります。

# 美徳の家

## 材料

＊色の厚紙、（家の壁４枚、色模造紙では柔らかすぎて土台に差し込めない。）

＊色模造紙（屋根）

＊紙粘土（家の土台）

＊マーカー
＊はさみ
＊テープ

**作り方**

＊４枚の厚紙に４つの美徳を書き込む。
＊土台なしで４つの壁を立たせてみる。
＊紙粘土で家の土台を作る。
＊「真実を述べること」と土台に書き込む。
＊１枚の壁に家の入り口ドア切り込む。
＊４つの壁を土台に差し込む。
＊色模造紙を半分に折って屋根を作る。
＊屋根に「礼儀正しさは美徳の王子」と書き込んで、４つの壁にかぶせる。

＊壁が崩れないようにテープでしっかり留める。テープはこれらの教えに従うという味です。

美徳を習って神の意

# TRUTHFULNESS

**Now it is time for us to take a special journey to help us remember what we have learned so far. First, let's prepare for our journey. Close your eyes and be still. Take a deep breath, hold it, and blow it out. Do it one more time. Squeeze your arms, and let them loose. Squeeze your legs, then let them loose.**

You are playing outside when your mother tells you to come and meet a special visitor. you go to the door and find a magical friend. This friend talks directly to your heart. It is a special friend, who reminds you that everyone is special. This friend will be with you on your shoulder all day. Everywhere you go, the friend will remind you not to laugh when someone falls down. The friend reminds you to clap when someone does a good job, and to smile at people. The special friend also lets you know when you are doing well, encouraging you as you go. But most of all your friend reminds you to be truthful.

You see someone who looks very different from you. You smile and say hello. Next, you see that a child is crying, you reach out your hand to help. This child is very polite, and now you have made a new friend. This makes you so happy.

You go home. And mother is asking you who ate the last cookie. She sounds upset, but your special friend reminds you about being honest. You tell your mother that it was you. Your mother smiles and says, "thank you for being truthful." You decide the next time you want a cookie, you will ask. Your special friend smiles at you, so very proud.

When you open your eyes, the special friend will become invisible, but you will still be able to feel guided every day.

さあ、これからすてきな旅に出ましょう。先に準備をしましょう。目を閉じて。気を静めて。息をすって、はいて。もう一度すって、はいて。腕をぎゅっとして、力をぬいて。足をぎゅっとして、力をぬいて。

あなたは外で遊んでいます。そこであなたの母はあなたに新しい特別な友達を紹介しました。この特別な友達は魔法の友達で、あなたの心にちょくせつ話すのです。この友達はみんなの特別さを教えてくれます。この友達はあなたのかたに乗り一緒にどこでも行きます。こけたひとをバカにしない事とか、がんばる人を応援する事などを教えてくれます。そしてもちろん、あなたに対してもこの特別な友達はきちんとほめてくれます。特にあなたが正直な気持ちで他の人を扱う時。

自分と見かけが全く違う人を見てあなたは素直に微笑みあいさつをします。泣いていて困っている子を見てあなたは手を差し伸べます。その子はとても礼儀正しい子であなたたちはすぐに友達になれました。

あなたはとても嬉しい気持ちになって家に帰ります。でもお母さんは少しおこっているみたい。最後のクッキーを誰が食べたのですか？と聞かれドキッとします。でもあなたの特別なお友達があなたに正直に答えるようにと言います。自分が食べたことをきちんとお母さんに言います。そしたらお母さんは正直に答えてくれてありがとう、と微笑んでくれました。あなたは思います、今度からはクッキーを勝手に取らず、先に聞いてから食べよう。自分は正直な方がいいと感じるのです。特別な友達もとても喜んでいるみたい。

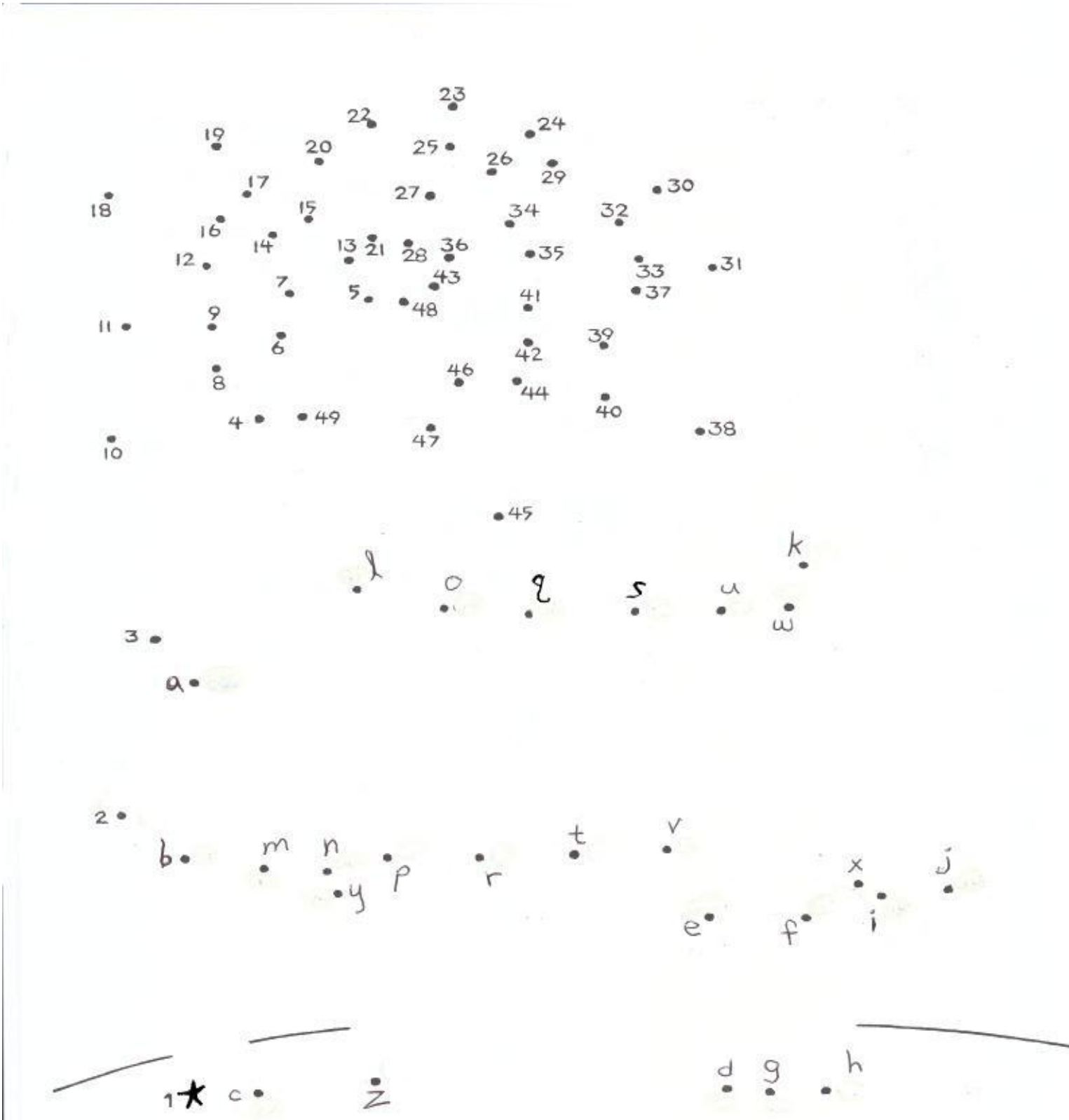
あなたが目を開けるとき、この魔法の友達は透明になります。でも心の中でいつも導いてくれるとやくそくをしてくれます。
用意ができたら目をあけてください。

～正直～

# ぬり絵

1から49、49とa、a からz までの点を全部つないでみましょう。どんな絵が出て来るかな？

a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z



みんなの写真

# 保護者のページ

子供の最初の先生は私たち保護者です。子供は何でも、習って欲しくないことまでも、私たちから習います。電話の友人に忙しいから会えないと言っておきながら、テルビを観ているときもです。セールスマンや知らない人に理由にならないような、ちょっとした嘘をつくときもです。子供はそれぐらいの嘘なら大丈夫と思ってしまいます。

子供に起こりそうもない脅しをしたことがありませんか。たとえば「ケンカを止めないなら、車から降ろしてそこに置いていくよ！」とか。罰を与えると脅しておきながら、その通りにしなかったことはありませんか。こういうことが重なると子供は私たちの言うことを信用しなくなります。そうなると何を言っても意味がないことになります。バハオラの言葉に、**「バハの人々よ!　行いが言葉と異なる者らの道を歩まないように気をつけよ。」、「おお兄弟たちよ！言葉にあらずして、行いをもちて汝の飾りとせよ。」**と、あります。だから日頃から私たちは真実を言うように気をつけなければいけません。**「真実を述べることは全ての美徳の基礎である。」というバハオラ言葉も、その**通り行動に移して子供に見せることが大切です。

ひとつ大事なことは感情的になって子供に罰を与えないことです。子供が何かしているとき、起きることを警告します。起きてしまったら、お祈りをして落ち着いて、起こしたことの責任を取るようにやさしく説明します。一度説明したら、子供が悲しそうにしても、泣いても、不平を言っても、その説明を変えてはいけません。子育ては子供と同様に保護者の教育にもなります。大人でもみんな間違いをします。間違いをしても，それを直していくことを子供と同じように学びます。

**クイズの答え**

１）人形が壊れていた。２）アニサ。３）おばあさん。４）真実を述べること。５）真実を言わなければならなかったから。６）家族のみんなが男の子をいい子だったので褒めた。７）真実を言うことがどなに大切か。８）美徳の家　９）紙粘土の土台。１０）？

皆さんのお子様のバハイ活動でみんなに役に立つ
いいお話、又は写真などがあれば、送ってください。
vb7mb7@bma.biglobe.ne.jp に送ってください。


ひるの星

Ｎｏ．25１

2012 年９月発行

ひるの星をカラー印刷するには以下のリンクにアクセスしてください。

http://www.bahaijpn.com/daystar.htm



日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿７丁目２番１３号

電話：03-3209-7521　ＦＡＸ：03-3204-0773

ひるの星委員会：平原静志、平原ルアナ、原奈緒、エダナ・アルマンザ



協力

物語：平原ルアナ、

和訳：平原静志、

写真：尊田望

絵：スティヴン・パシャル、平原ルアナ、

テクニカル・アドバイザー：尊田望

監修：平野祐一